

令和2年度第2回尾張旭市地域づくり懇談会結果

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、尾張旭市地域づくり懇談会構成員（以下「構成員」という。）の健康面を考慮し、令和3年2月9日開催予定の令和2年度第2回尾張旭市地域づくり懇談会の開催に代えて、構成員に議題についての意見を書面で求めた。

1 議題

まち・ひと・しごと創生第2期尾張旭市総合戦略（素案）について

2 議題に対する意見要旨

資料2について

- ・ 「6 新たな視点」について、「新しい時代の流れを力にする」と記載があるが、本市がどのようなまちを目指すのか。市民がどのように暮らせるまちをつくりたいのか、現段階で目指す姿が具体的に描かれているのか分かりにくい。
- ・ 「若い世代の希望をかなえ、誰もが活躍できる社会」について、「誰もが」とは、「多様性を受け入れる」を指していると考ええると、若い世代が活躍できる、活躍したくなる本市像と、誰もが活躍できる本市像は同じには思えず、対象が違うことから、市の施策もかなり違ったものになるのではないか。

資料3について

- ・ P4「9 第1期市総合戦略の効果検証」において、基本目標3・4が傘マークであるのが気になった。「健康都市」は本市をブランド化するものであり、「住みよいまち」を目指して取組を頑張っていると感じているため、もう少し評価が高くてもよいのではないかと思った。
- ・ P4「10 第2期市総合戦略の策定の方向性」(1) 6つの「新たな視点」において、資料2でも記載したが、分かりにくいと感じる。
- ・ 世代別等ターゲット別に施策を進める方法もあると思う。
- ・ 進捗状況を可視化して市民に広く発信することで、市民に理解される行政になると思う。
- ・ 市の広報・HPなどは、『見よう・見たい』という意思のある人しか見ないため、意思がない人にも目に留まる広報等を工夫されてはどうか。
- ・ 「都心回帰」から「地方への関心の高まり」は、本市にとってチャンスであると思う。本市の強み弱みを近隣市と比較してみてもどうか。
- ・ 「新しい時代の流れを力にする」とは、ICTの活用だけではなく、「今までとは違う発想」「見方を変える」「視線を変える」という考えもあると思う。
- ・ P7「2 重視すべき視点」の「視点1：多様な就業機会を創出していく」について、
 - ・ 地場産業の後継者問題について金融機関と連携

- ・地場産業の不足している部分に提携できる企業探しの機会・情報提供
- ・起業家のインキュベーターとなりうる市の施設の提供・支援
- ・フルタイムでは難しいが、ニッチな時間なら働ける機会・情報提供
- ・高齢者の知識、経験、知恵をもとに生きがい、やりがいを活かし協力を得る。
- ・子育て経験者の活用

など、行政支援（事業創生、事業支援、就労支援等）ができているか。

- ・地場産業の活性化は、税収増加、生産年齢の市民の定住、それに伴う他の商業など産業全般の活性化につながると思う。行政が「してあげる」だけではなく、市民参加を促すことで「誰もが活躍しやすいまち」に近づくことができるのではないか。
- ・P16「(4) 商業の振興」のKPIが見直され、「日常生活に必要な商品」の（ ）の中から「飲食店」を除く「食料品、日用品、電化製品」とし、また、「市内」に「商店」を加筆し、「市内商店で買う市民の割合」となったことにより、文言が明確

になったと思う。

- ・P17「(7) 行財政運営の推進」について、尾張旭市まちづくり応援寄附金について、人が集まる商業施設、駅、車内広告などで周知してはどうか。
- ・P20「(5) 確かな学力を育む教育の推進」について、小中学校等で、紅茶、棒の手、森林公園といった地域の特色を生かした授業を実施するなど、子どもたちには、尾張旭市で育ったことを誇りに思えるような教育機会を持って欲しいと思う。
- ・P22「2 市が講ずべき施策に関する基本的な方向性」の中の「○ 災害に備えて安心な地域をつくる」について、行政は災害対策・減災対策について、教育や様々な機会を通じて、自助共助について市民に考えるきっかけを、平時から作ることが必要だと思う。
- ・住みやすいまち、子育てしやすい環境において、「空家対策」や「子育て親の孤立防止の支援」などは、本戦略に含まれていると考えてよいか。
- ・「にぎわいの創出」という観点から、「未来にむけた新たな観光資源（文化財）の創出」という視点があるとよいのではないか。